

謹呈

昭和五二年三月一日

斎藤鎮男

前田義徳様



私の軍政記

★インドネシア独立前夜

齊藤鎮男

装幀題字 間庭信介



ジャワ作戦に向かう日本軍の精鋭は、
昭和17年2月11日の紀元節を仏印のカ
ムラ湾の艦上で迎えた。



ジャワ島上陸作戦のひとつ。自動車部隊の敵前上陸である。



小野佐世男(故)、横山隆一両画伯による漫画風な壁画。
西部ジャワ、セラン市のもの。“アジア民族よ、ひとつ
になれ”のスローガンが大書されている。



侯制が施行された直後、スラカルタ侯が今村司令官を訪問した。左より、町田宣伝班長、三好領事、岡崎参謀長、一人おいて今村司令官、林軍政顧問、スラカルタ侯、中山総務部長、藤井企画課長。



ジャワ軍政の立役者、今村均中将与ジャワの子供たち。



当時、若き独立の志士であったスカルノ氏と農民たちが談笑している。



ジャワ島上陸をふくむ東印度作戦の戦死者を弔う慰霊祭。壇上の供物に罐詰が多く見られる。



昭和30年末、ありし日のスカルノ氏とハッタ氏。



昭和51年、スバルジョ氏が来日、記念講演会がおこなわれた。氏を迎える前田元海軍少将。



軍政監部前の広場にて。右はし黒帽がスカルノ氏。
左へ山本総務部長、野村企画課長。



●著者紹介

齊藤 鎮男 / さいとう・しずお

大正3年東京生れ。

東京帝国大学法学部中退。

ただちに外務省入りし、第2次大戦中、ジャワ軍政監部政務班長。

戦後シアトル領事・駐英大使館参事官・タイ公使

・外務省国連局長・インドネシア大使・外務省官

房長・オーストラリア大使・国連大使を歴任。昭

和51年には、ロッキード事件に関し、政府特使と

して訪米した。

現在、フォーリン・プレスセンター理事長。

私の軍政記

インドネシア独立前夜

目次

輸送船上

病院船瑞穂丸

回想 軍政準備中の出来ごと

南十字星

回想 軍政とは何ぞや

バンタム湾敵前上陸

バタビア入城

首都を目指して

首都占領

軍政発足

軍政思想の二系統

今村軍政の批判

軍政と陸海軍関係

緊急特殊施策

スカルノ、ハッタ両氏の登場

今村司令官、スカルノ氏と初会談

軍政協力の立場をとったスカルノ氏

中立を守るハッタ氏

特異な地下運動グループ

軍政の転換

変転する日本の民族運動対策

三A運動の消長

プートラ運動の明暗

官製運動ジャワ奉公会

独立への道

独立に代わる政治参与

三指導者の心重い訪日

独立認容に踏み切る

青年勢力の台頭

遅々たる外領の独立対策

クレセントの旗

躍進するイスラム対策

防衛義勇軍の誕生

独立宣言前後

独立施策の急展開

スカルノ、ハッタ両氏の誘拐

独立宣言成る

軍政の終焉

血なまぐさい兵器の争奪

血書の独立讃歌

軍政機関の自壊

チャンギー監獄

軍政の反省

補給基地ジャワへの重圧

食料・労務の強制供出

軍政下の暴動事件

一部日本人の言動

引揚船上

乗船

回想 青年の力

回想 スカルノ氏の対日協力

回想 日本の寄与は何か

終着

あとがき

参考

パンチャ・シラ

一九四五年インドネシア共和国憲法

戦況の経過と軍政の足どり（年表）

325 315 288 286 284 283 276 272 269 268 268

輸送船上

病院船瑞穂丸

昭和一七年二月一九日、軍政要員を乗せた病院船「瑞穂丸」は、数十隻より成る大船団に混って薄墨色に霞むカムラン湾を滑るように出航した。

私は、南支那海の穏やかな、だが賑やかな感じの波のうねりの上に、見知らぬ未知の世界に運ばれてゆく自分自身と、夜目にも白く遠ざかってゆく航跡をじっと見詰めていた。